



平成 26 年 4 月 24 日

各 位

会 社 名 エバラ食品工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 宮崎 遵
(コード番号: 2819 東証第二部)
問合せ先 専務取締役 高井 孝佳
(TEL. 045-314-0121)

業績予想の修正及び特別損失（関係会社株式評価損等）の 計上に関するお知らせ

当社は、平成 25 年 5 月 13 日に公表した平成 26 年 3 月期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の業績予想について、個別決算における特別損失（関係会社株式評価損等）の計上を含め、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 26 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	50,000	1,560	1,500	739	80.81
今回修正予想 (B)	50,149	1,922	1,848	838	91.74
増減額 (B-A)	149	362	348	99	—
増減率 (%)	0.3	23.2	23.3	13.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 3 月期)	48,427	1,434	1,431	732	72.81

※ 従来、受取賃貸料に対応する費用を売上原価に含めて表示しておりましたが、重要性の観点から当連結会計年度より営業外費用として表示する方法に変更したため、前期実績についても同様に組み替えた後の数値を表示しております。

(2) 平成 26 年 3 月期 通期個別業績予想数値の修正（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	43,640	1,330	709	77.53
今回修正予想 (B)	43,810	1,783	556	60.84
増減額 (B-A)	170	453	△152	—
増減率 (%)	0.4	34.1	△21.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 3 月期)	42,486	1,229	694	69.01

(3) 連結及び個別業績予想の修正理由

売上面においては、家庭用商品の『浅漬けの素』が第2四半期以降の野菜価格高騰の影響で苦戦したものの、新商品『プチッと鍋』が発売から順調な売上推移を見せたほか、調味料としての汎用性を訴求した『黄金の味』が、特に第4四半期に売上を伸ばし、利益増加に貢献いたしました。コスト面におきましては、原材料価格が上昇するなか、主に製造部門を中心とした原価低減活動の取り組みにより売上原価率を計画数値以下に抑え、販管費率も効率的な宣伝費投下等により計画を下回る水準で推移した結果、営業利益及び経常利益は予想を上回る見込みとなりました。

当期純利益につきましては、既に公表した厚生年金基金脱退損失を計上したものの、上記理由により連結業績は予想を上回る見込みですが、個別業績につきましては、後述のとおり新たに特別損失を計上することから、予想を下回る見込みとなりました。

2. 特別損失（個別）の計上及びその内容

関係会社株式評価損	250百万円
貸倒引当金繰入額	84百万円

当社は、平成23年6月よりCJ Cheiljedang Corporation（韓国 ソウル市）との間でチルド事業に関する合弁会社（株式会社エバラCJフレッシュフーズ）を設立し、家庭用のキムチを主力商品として事業を展開してまいりましたが、販売チャネルの展開に想定よりも期間を要したことに加え、国内キムチ市場の低価格競争が進行したこと等により、当初事業計画との乖離が増大いたしました。このような現状を踏まえ、長期的な計画を見直した結果、同社株式の減損処理を行い、関係会社株式評価損を計上いたしました。また、同社に対する貸付金についても、財政状態を鑑み、その一部につき貸倒引当金繰入額を計上いたしました。

なお、上記の関係会社株式評価損及び貸倒引当金繰入額は、連結財務諸表上では消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

(注意事項)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上